

加賀野菜

さつまいも

栽培マニュアル



# 【さつまいも】

科名 ヒルガオ科

主な産地 粟五地区、大野地区、大徳地区

## 栽培の歴史

元禄時代末期（一七〇〇年頃）に五郎島村の百姓が薩摩の国から種芋を持ち帰り、その栽培を伝授したのが始まりとされている。その後、明治10年頃から産地化が進み、昭和35〜46年にかけて畑地の整備、昭和52年にキュアリング貯蔵法の導入があり、金沢北部砂丘地の主力野菜のひとつとなった。

## 特性等

栽培品種の「高系14号」は、昭和20年に高知県農業試験場にて育成された早掘り用品種で、形状は紡錘形、皮色は紅色、肉色は黄白で外観が良い。食味は繊維質が比較的少なく、粉質系で甘さが強い。生育温度は15〜38度となっており、種芋は9度以下だと腐敗する。土壌に対する適応性はpH4.2〜7.2と広い。



## 栽培カレンダー

● : 種芋伏せ込み ■ : 定植 ■ : 収穫

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マルチ早掘り			●●	■				■				
露地普通			●●		■				■	■	■	



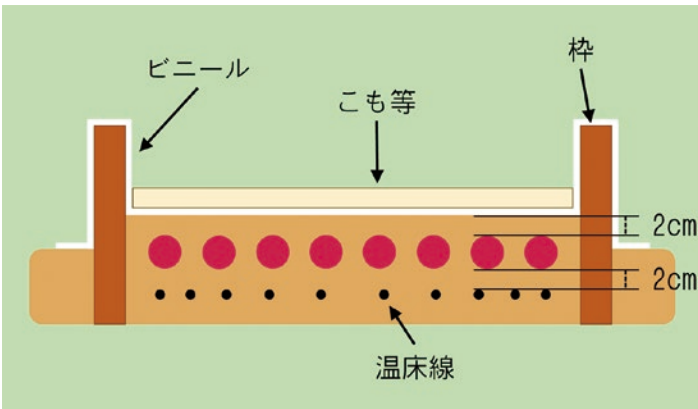
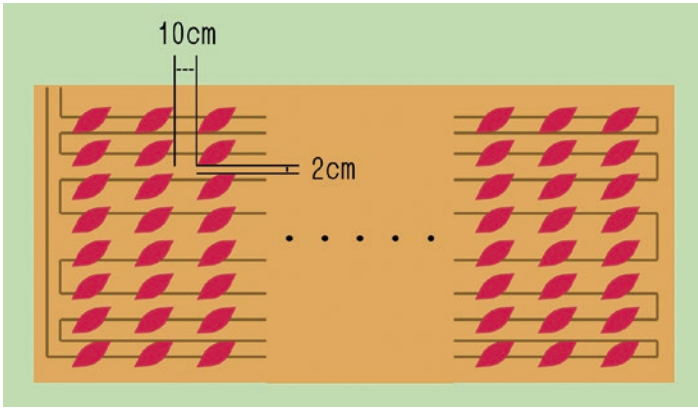
# 1 種芋伏せ込み

## 【伏せ込みまでの準備】

- ・ 予め、前年の12月中旬頃までに育苗床の土壤消毒を済ませておく。
- ・ 育苗床に、坪当たり150〜200wを確保するように温床線を設置する。

## 【伏せ込み】

- ・ 3月上中旬頃に、温床線の上に2cm程度の厚さで床土を敷く。前年に確保した種芋を床土の上に向きを揃えて均等に並べ、2cm程度の厚さで覆土した後、十分に灌水する。（種芋の間隔は、行方向に2cm程度、列方向に10cm程度ずつ空ける）
- ・ 保温及び保湿のため、萌芽まではビニールとこも等で被覆する。
- ・ 萌芽後はビニールとこも等を撤去してトンネル被覆を行う。



## 【温度管理】

- ・ 萌芽前は、育苗床の地温で日中22〜30度、夜間18度以上を確保する。30度を超える高温や9度以下の低温では種芋が腐敗しやすい。
- ・ 萌芽後は、育苗床の地温で日中25度前後、夜間15度以上とし、日中の地温は生育に合わせて徐々に下げていく。気温については、午前中は23〜33度のやや高めとし、午後は20度前後を目標に管理する。



黒く変色し傷んだ種芋は使わない



種芋伏せ込み



7〜10日程度で萌芽する



伏せ込み後にビニールとこも等で被覆

# 2 採苗

## 【採苗までの管理】

- ・ 1回目の採苗は種芋伏せ込みから約50日後を目安とし、採苗の4〜5日前から徐々にトンネル、ハウスサイドを開放し、昼夜の寒暖差をつけて外気温に馴化させておく。
- ・ 軟弱徒長とならないよう日光に十分に当て、健全な苗を確保する。

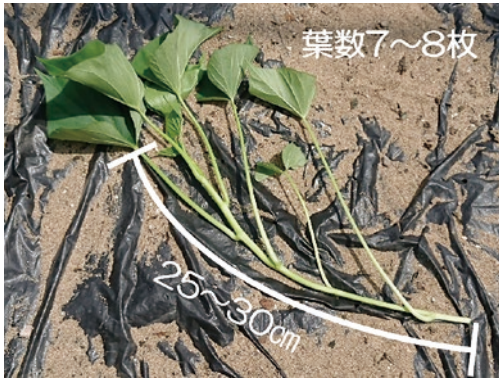
## 【採苗】

- ・ 株元から2〜3節を残して葉数7〜8枚、長さ25〜30cm程度を確保するように苗を切る。50本束で750g〜1kg程度が理想的である。
- ・ 1回目の採苗から約1週間おきに1回当たり200〜300本/坪程度採苗できる。

- ・ 採苗を行うごとに追肥を施し、2〜3日は高温多湿気味の管理で側芽の発生を促す。



採苗



適正な苗の目安



採り置きにより発根が促進される



採苗後は下から側芽が発生する

## 【苗の採り置き】

- ・ 採苗後、気温15度程度の冷暗所で乾かさないうちに数日保管すること、根の伸長が良くなり、苗の乾燥耐性が高まる。
- ・ 採り置きは5日程度を限度とする。

### 採苗のポイント

苗の良し悪しは、その後の収穫物の出来不出来に直結するため、適切な管理に努める

表1 採苗後の追肥設計例

(g/坪)

肥料名	施用量	成分量
特A801	200~300	N:16~24 P:16~24 K:16~24



# 3 定植

## 【定植までの準備】

- ・スプリングロー等で圃場全体を十分に灌水したうえで、基肥を全面施用し耕起する。
- ・畝幅70〜80cm程度を目安に畝立てを行う。2畝成型アタッチメントを装着したトラクターを使用することで、耕起と畝立てを同時に行えるため、省力化につながる。
- ・マルチ早掘り栽培では、畝立てと併せてマルチ張りも行う。

## 【定植】

- ・定植は、畝立ての当日または翌日で、風の穏やかな日に行うことが望ましい。
- ・定植方法は株間35〜40cm程度で、船底植えを基本とし、苗の切り口を地上に出さず、3節程度を埋め込む。



トラクターによる畝立て

表2 施肥設計例（砂土） (kg/10a)

肥料名	施用量	成分量
新金沢甘藷専用	140	N: 7.0 P: 21.0 K: 16.8
脱脂米ぬか	40	
過磷酸石灰	40	
ハイグリーン	40~60	



船底植えのイメージ図



定植作業

### 定植のポイント

船底植えにすることで、収穫時の芋の大きさが揃いやすい



定植苗の様子

# 4 管理

## 【灌水】

- ・スプリンクラー等により灌水をを行うが、定植後の過灌 waters は活着不良や肥料抜けの原因となるため、活着するまでは芯が枯れない程度とする。
- ・活着後は、晴天日3日ごとに1回程度を目安に灌水すること。
- ・夏季高温期においては、茎葉が激しく萎れないように灌水することとし、日中を避け、朝夕の涼しい時間帯に行う。

## 【排水対策】

- ・土壌の過湿は、生育不良や芋の品質低下及び腐敗等につながるため、排水不良地では事前に排水溝を切っておく。



定植からしばらくは萎れたまま



1か月後には完全に活着し生育が進む

# 5 収穫



スプリンクラーによる灌水

## 灌水のポイント

定植～活着までの間、萎れを我慢できずに灌水を多くすると、発根量（芋数）が増え、小ぶりの芋が多くなってしまう



つる刈り機による刈り取り



芋掘り機による収穫

- ・収穫は定植から120～150日頃を目安に行い、降霜前（11月初旬頃）までに終わらせる。
- ・つる刈り機等で地上部のつるを刈り取り、残ったつるを手で除去した後、芋掘り機等で収穫する。
- ・降雨後の過湿状態での収穫は芋が傷付きやすいため、晴天日に行うことが望ましい。



# 6 貯蔵・調整

【無加温貯蔵（年内出荷）】

- ・ 収穫から3日程度は呼吸熱で芋の温度が上昇するため、風通しの良い場所（換気扇を作動させた納屋等）に保管する。
- ・ ハサミ等で太い根などを切り落とし、軽く砂を払い落とすうえで、芋洗い機に投入し、ひげ根や落ちなかつた細かい砂を除去する。
- ・ 洗浄後の芋は、十分に乾燥させた後、出荷する。



洗浄後の芋



芋洗い機での洗浄

## 調整のポイント

芋洗い機を使用して調整した場合、ひげ根を除去する手間が減り、芋の色つやも良くなるが、濡れたことで傷みやすくなり、貯蔵性が劣るため、無加温貯蔵（年内出荷）分のみとする

【定温貯蔵（翌1～3月出荷）】

- ・ 貯蔵庫内を気温13度前後、湿度90%の条件とし、芋を保管する。保管後も4～5日に1回は換気して新鮮な空気を取り入れる。
- ・ 順次貯蔵庫から出し、砂やひげ根を除去して出荷する。

【キュアリング貯蔵（翌4～6月出荷）】

- ・ 貯蔵庫内を気温30～35度、湿度90～95%の高温多湿条件とし、芋を4～5日間保管する。この処理により、コルク層が形成され、芋表面の傷口を塞ぐことで、貯蔵性が向上する（キュアリング処理）。
- ・ 処理後、定温貯蔵と同様の条件で保管し、順次砂やひげ根を除去して出荷する。



定温貯蔵



キュアリング貯蔵

# 7 出荷

・傷や病虫害の有無、形状等を確認し、等階級別に箱詰めする。



箱詰め作業



等階級ごとに選別

表3 五郎島さつまいも部会等階級（参考）

等級	秀・ <b>秀</b> ・長・コ口・良・外・切
階級	3L・2L・L・M・S・2S・3S・4S



箱詰め後

# 8 種芋生産

【メリクロン苗の確保】

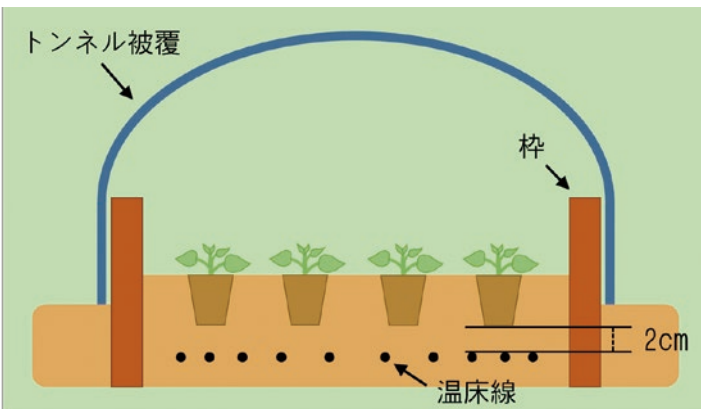
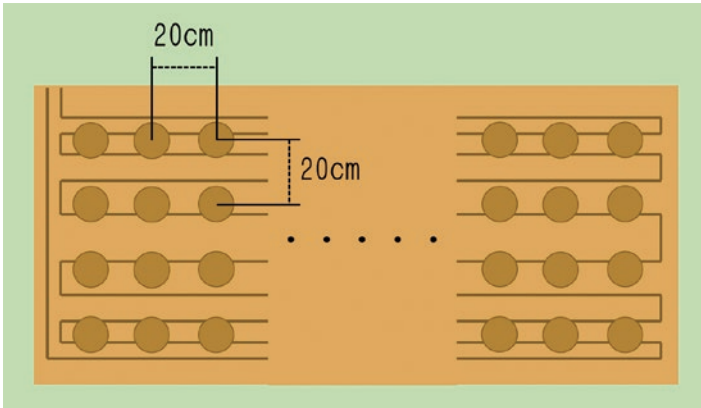
・翌年栽培用の健全な種芋を生産するため、種苗メーカー等からウイルスに罹病していないメリクロン苗を購入する。

【育苗床の準備】

・予め、前年の12月中旬頃までに育苗床の土壤消毒を済ませておく。  
 ・育苗床に、坪当たり250〜300Wを確保するように温床線を設置する。

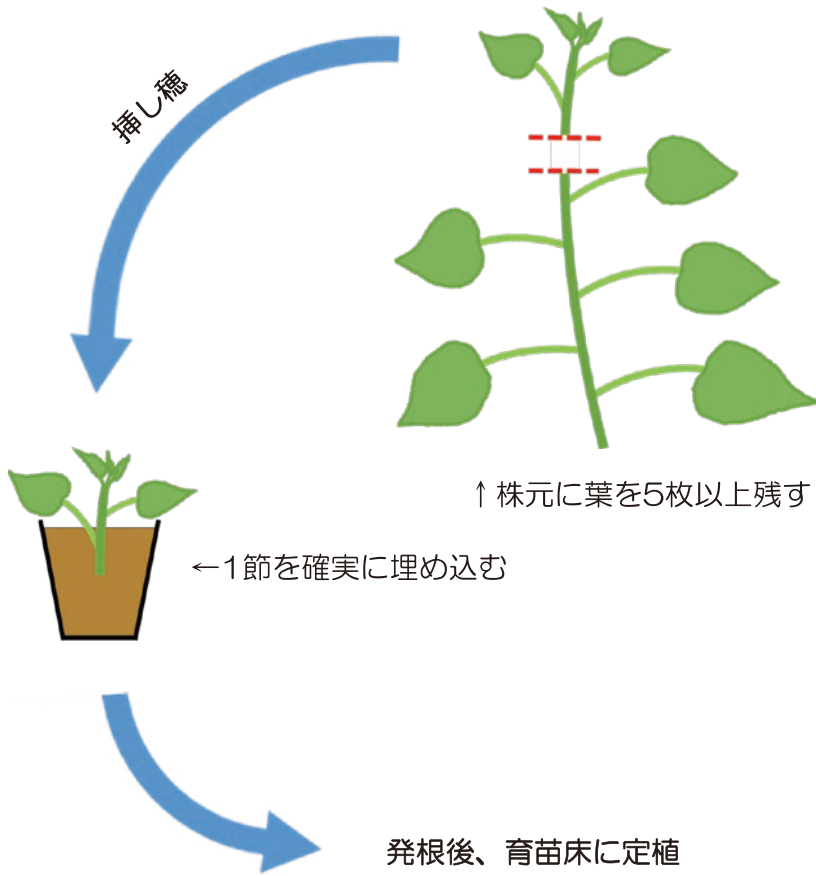
【メリクロン苗の定植】

・2月中旬頃に、温床線からメリクロン苗の鉢底まで2cm程度を確保して床土を敷き、条間20cm、株間20cmで定植する。  
 ・定植後、トンネル被覆を行い、保温に努める。





↓ 完全展開葉を2枚確保し採穂



【挿し穂（摘芯）】

- ・ 定植から30日後を目安に、株元に葉数5枚以上を残し、完全展開葉2枚を確保するように採穂（摘芯）し、ポット等に挿し穂する。
- ・ 挿し穂の際は、穂の1節を確実に土壌に埋め込むようにする。
- ・ 挿し穂苗は、発根後に育苗床に定植し、メリクロン苗を増殖させる。
- ・ 挿し穂後、育苗床に残した株元に対して追肥を施し、2〜3日は高温多湿気味の管理で側芽の発生を促す。

【温度管理】

- ・ 種芋に比べて低温に弱いため、気温18度以上を確実に確保する。
- ・ 挿し穂苗は発根までの間、強日射による萎れ等を防ぐため、遮光資材を用いる。

【種芋生産】

- ・ 種芋生産の栽培方法は、本マニュアルのP.2〜P.5に準拠する。
- ・ 生産された芋のうち、品質・形状の優れたものを翌年栽培用の種芋として確保し、残りは出荷する。（育苗床1坪当たり40kg程度の種芋が必要）



挿し穂苗の様子

表4 挿し穂後の追肥設計例 (g/坪)

肥料名	施用量	成分量
特A801	150~200	N:12~16 P:12~16 K:12~16

# 9 病害虫防除

※主な病害虫については次頁を参照

- ・ 日常の管理と併せ、生育状況等を観察し、病害虫の早期発見と初期防除に努める。
  - ・ 病害虫は、年によって発生程度に差はあるが、繰り返し発生するので、発生時期や防除実績を日誌等に記録し、翌年以降の防除に活かす。
  - ・ 農薬は「野菜類」または「さつまいも」の登録のあるものを使用する。
  - ・ 農薬の使用にあたっては、最新情報入手するとともに、ラベルの記載内容を必ず確認して使用する。
  - ・ 農薬の最新情報は、農林水産省「農薬コーナー」を参照する。
- URL: <http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

## 病害虫防除のポイント

次作の病害の発生源とならないよう、栽培終了後、残さを圃場外へ持ち出す



【主な病害虫】

病害名	主な症状等
立枯病 (かいよう症状)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育初期に葉が黄色から紫紅色になって生育不良となり、多発時は枯死する</li> <li>・根部では黒色円形のやや陥没した病斑を生じる</li> <li>・軽微な場合、根部の肥大とともに病斑部が治癒することもあるが、病斑部がくびれて奇形となることが多い</li> <li>・高pH (pH7以上)、高温乾燥の条件で発生しやすい</li> </ul>
斑紋モザイク病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初め葉脈間に淡黄色の斑紋を生じ、次第に斑紋の周囲が紫色となる</li> <li>・根部では表皮が退色し、さめ肌状となる</li> <li>・サツマイモ斑紋モザイクウイルスをアブラムシ等の吸汁性害虫が媒介し感染する</li> <li>・種芋伝染性のため、感染した種芋から苗を生産すると被害が拡大する</li> </ul>

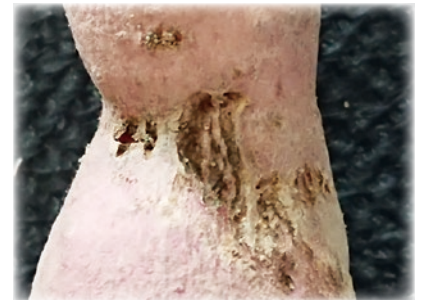
害虫名	主な症状等
シロイチモジヨトウ	・幼虫が葉脈を残すようにして葉を食害する
コガネムシ類	・幼虫が根部を食害する
ケラ	・成虫や幼虫が根部を食害する
ハダニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉裏に寄生し、吸汁する</li> <li>・多発時は葉が萎縮し、生育が停滞する</li> </ul>



シロイチモジヨトウ



斑紋モザイク病



立枯病  
(かいよう症状)



ハダニ



ケラ



コガネムシ類

加賀野菜「さつまいも」栽培マニュアル  
発行 令和4年3月  
発行元 金沢市  
監修 酒崇 善博(農の匠)  
編集 金沢市農業センター  
金沢市下安原町東1471  
電話 (076)249-2744  
FAX (076)249-4470

